

*アンデレとヨハネはバプテスマのヨハネの弟子であったが、師に「見よ、神の子羊」と示されてイエスについていった。「イエスは振り向いて、彼らがついて来るのを見て、言われた。「あなたがたは何を求めているのですか。」彼らは言った。『ラビ(訳して言えば、先生)。今どこにお泊まりですか。』イエスは彼らに言われた。『来なさい。そうすればわかります。』そこで、彼らはついて行って、イエスの泊まっておられる所を知った。そして、その日彼らはイエスといっしょにいた。時は第十時ごろであった。」(ヨハネ1:38~39)二人は、この方には何か本物の、心満たされるものがあるだろうと思っていたにちがいない。しかし、すぐに答えられる質問ではなかった。私たちがもしも同じように「あなたは何を求めているのか」と問われたらどう答えられるだろうか。何を求めて教会の礼拝に来ているのか、何を目指して生きているのか、と問われたら、確信を持って答えられるだろうか。二人は、このイエスのことをもっと深く知りたいと思い、泊まっておられるところを聞いた。イエスは快く受け入れ、彼らはおそらく一緒に食事をし、寝泊まりして過ごした。たつぷりとイエスから話を聞いたことだろう。

*「ヨハネから聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとは、シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。彼はまず自分の兄弟シモンを見つけて、『私たちはメシヤ(訳して言えば、キリスト)に会った』』と言った。彼はシモンをイエスのもとに連れて来た。イエスはシモンに目を留めて言われた。『あなたはヨハネの子シモンです。あなたをケパ(訳すとペテロ)と呼ぶことにします。』(ヨハネ1:40~41)

後に12使徒となるアンデレから、人にイエス・キリストの福音を伝えるのに必要な2つのことを学ぶ。

1. 私はメシヤ(キリスト)に会ったという確信を持つ。イエスがキリスト、私の救い主であるという確信を持つことが何より大切。本当にキリストに出会ったという実感がなければ伝える力が起こるはずがない。改めて、イエス・キリストと出会いたい、そのためにはイエス・キリストと一緒に過ごす時間を多くとりたい。聖書をよく読み、祈ることの大切さを改めて思わされる。

2. 身近な人をイエスの所に連れていく。イエスこそ神の御子であり、救い主であると確信したら、その喜びと恵みを誰かに伝えたいと思う。アンデレは兄弟シモンをイエスの所にすぐに連れて行った。すると、イエスはシモンを見込んで「ペテロ」という名をつけられた。彼は後にイエスの一番弟子となる。

今の時代、教会には様々な伝道の手段が与えられている。しかし、その原点は、アンデレがしたように、身近な家族、友人知人への伝道である。時間がかかるかもしれないが必ず実が成ると信じて救いのために絶えず祈るものになりたい。